



一般社団法人ふくおか FUN

## 2016 年度 事業報告書〈第 2 期〉

[期間：2015 年 12 月 1 日～2016 年 11 月 30 日]

## 事業の成果

当団体では、スクーバダイビングのライセンス保持者（以下、ダイバーという）達が公益性を伴った活動を行っています。日本には、海洋での作業や救援等を行う「潜水士」の資格を持つダイバーの他に、休日のレジャーでのみスクーバダイビングを楽しむためにライセンスを取得するいわゆる「レジャーダイバー」が多数存在します。私達は、そうしたレジャーダイバーを中心とし、これまで自分達にしか知り得なかった水中の生物や環境について、観測・調査・記録を続け、福岡の海の美しさを見守り、伝え、守っていくために活動しています。

当団体は、このように『ダイバーだからこそできること』という視点で、本当に“リアル”な福岡の水中世界を一人でも多くの人に体感してもらいたい、そして都市で生活を営む人間と海との繋がりについて考えるキッカケを与えることを考えていました。

設立二期目となる 2016 年度は、初年度に引き続き、水中生物・環境の観測・調査・記録を行いながら、その写真や動画を活用して写真展・授業・講演等を実施しました。また、水中スノーケル体験やビーチクリーンアップ活動、一日体験ダイビング等の実施により、海での実体験を通して新しい感動や気付き、学びを与える活動や、自然災害発生時に海中捜索や作業を行えるスキルを身につけるための災害救援ダイバーの育成、等を行いました。

### 1、定点観測事業

◎スクーバダイビング中に博多湾を中心とする福岡の海で水中環境・水中生物を定期的に調査・観測・撮影

### 2、ふくおか水中環境保全啓発事業

◎福岡の海で撮影した写真や動画を活用し、福岡県内の教育機関等で授業を実施

◎福岡の水中環境及び生物多様性を伝える写真展・動画上映会を開催

◎環境やボランティアに関連するイベントにブースを出展

◎福岡市や他団体が主催する、生物多様性に関するイベントにて講師として参加

### 3、“ひろい”海の活動事業

◎レスキュースキルを有するダイバーの安全管理のもと、主に小学生を対象とする水中スノーケル体験・ビーチクリーンアップ活動（子ども達が実際に福岡・博多湾の水中生物を観察した後にビーチクリーンアップ活動を行う新しい形の環境保全啓発活動）を実施

### 4、災害救援ダイバー事業

◎災害時いち早く水中がれきの撤去や捜索のために動ける民間ダイバーの育成

### 5、FUN 海体験事業

◎海で自然を体感してみたい方を対象に行う一日体験ダイビングプログラムの実施

### 6、その他

◎ふくおか FUN オリジナルグッズの販売、メディア出演、など

## 事業内容詳細および実施状況

### 1. 定点観測事業

福岡の海は想像を超える多彩な水中環境が広がっています。また、未開拓の部分も多く、図鑑に掲載されている分布図を覆すようなことも少なくありません。私達は、四季折々変化する福岡の海に潜り続け、生息している多様な生物や藻類等について年間を通じて観測・撮影・記録し、当団体の全ての活動においてそれらの写真や動画データを活用しています。

また、本事業では、ダイビングチーム『潜達人（もぐんちゅ）』や、九州大学・福岡女子大学ダイビングサークル『海 BOUZ（うみぼうず）』メンバーの協力を得て活動を実施しています。2016 年度からは新たに、豊かな水中世界が広がる小呂島（おろのしま）において漁業共同組合、漁師、島民の皆さんとの理解を得て定点観測を始めました。

さらに、こうした豊かな水中環境だけではなく、生活排水の流入等による有機汚濁、赤潮の発生、貧酸素状態といった生物の命を脅かす可能性のある博多湾内の水域の撮影も行いました。

来年度は福岡市の研究機関と共に働くことで、私達が行う定点観測によって得られたデータを科学的知見からも分析できるようになったため、事実データとして社会へ発信できるとともに、さらに公益性の高い活動となります。本事業は、今後もふくおか FUN にとっての“心臓”となるでしょう。

実施場所 博多湾（主に糸島エリア）、小呂島、玄界灘

実施期間 2015 年 12 月～2016 年 11 月 常時実施

参加人数 ダイバー参加人数 約 50 人



## 2. ふくおか水中環境保全啓発事業

本事業では、これまでダイバーにしか知り得なかった水中世界について、一般の方々に広く伝え、水中環境保全のための啓発を行うことを目的としています。福岡に住む人々の多くは、残念ながら「福岡の海は汚い」というイメージを持っています。確かに、都市部からの生活排水の流入等による有機汚濁や赤潮の発生、貧酸素状態といった生物の生命を脅かす水域があることは事実と言えます。しかしながら、博多湾には私達の想像をはるかに超える多様な生物が存在し、生命の活力を感じることができます。この美しい海を守っていくためには、今よりさらに市民レベルでの意識改革が必要不可欠であるとの考えから、福岡県内各地で授業や講演・写真展等を開催し、福岡の海の現状を伝えてきました。

2016年度は、市内各地で、主に公的スペースを利用して水中写真展・動画上映会を開催しました。また、糟屋郡新宮町の小学校での初授業や、福岡市立北崎小学校で新たな試みとなる屋外授業（ビーチコーミングなど）を実施したり、福岡市及び生物多様性の保全に関わる非営利団体主催のイベントに講師として参加したり、といったように活動の幅も拡がり、10月には市主催の環境イベントへのブース出展、ステージPR等も行うことができました。さらに、9月には九州朝日放送局の環境特番『水と緑の物語 未来に残したいタカラモノ』での福岡の水中環境の美しさや問題に関する特集コーナーにおいて、当団体代表が佐藤栄作氏、石原良純氏と共に博多湾でダイビングを行い、水中世界の現状について伝える様子が放送されました。

私達は、こうした活動を通じて、一人でも多くの方に福岡の海、そして自分達の生活を見つめ直してもらいたいと考えています。その上で、「まず自分が動かなければ、世の中は動かない」ということを伝え、参加者が受け身ではなく自発的に、“それぞれが考えたこと”を実行に移していくような場づくりを心がけています。



実施場所	《教育機関等》 福岡市立西陵中学校、福岡市立北崎小学校、箱崎自由学舎「えすぺらんさ」、新宮町立立花小学校、福岡県立福岡講倫館高校 《イベント講師》 生きものと私たちのくらしトークカフェ第一回（福岡市環境局環境調整課主催） 《写真展・動画上映会》 福岡市役所、コミセンわじろ（福岡市東区）、福岡市 NPO・ボランティア交流センターあすみん、さいとぴあ（福岡市西区）、福岡市臨海 3R ステーション（福岡市東区） 《イベント出展》 環境フェスティバルふくおか 2016（福岡市環境局主催） ふくおか“できる”マーケット（福岡県 NPO・ボランティアセンター主催）
実施期間・回数	2015 年 12 月～2016 年 11 月 ◎回数：教育機関等 合計 10 回 イベント講師 合計 1 回 写真展・動画上映会 合計 7 回 イベント出展 合計 2 回
参加・来場者人数	教育機関等 延べ約 500 名 写真展・動画上映会 延べ約 2,000 名
事業の対象者	実施教育機関の生徒、一般市民
助成団体	福岡市環境局環境政策課 公益財団法人日本財団 「海と日本プロジェクト 2016」 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金

### 3. “ひろい”海の活動事業

本事業では、主に小学生を対象とした水中スノーケル体験・ビーチクリーンアップ活動を実施しています。子ども達が実際に福岡・博多湾の水中生物を観察した後にビーチクリーンアップ活動を行う新しい形の環境啓発活動です。2015年度より実施している本事業では、将来を担う子どもたちにスノーケリングを通して水中世界の生物や不思議、水中ゴミの存在を伝えることで、大人の主觀を押し付けること無く自発的にごみ拾いをしたり環境問題を考えたりできる機会を提供しています。活動では、海でのアクティビティを楽しみながらも、水中環境についての事実を知った子どもたちが、それぞれ自分なりの問題解決の行動を取れるように導いていきました。

イベントの際に実施したアンケートでは、参加した小学生が地元の海に対して「思っていたよりキレイだった」「こんなに生物がいることを知らなかった」「海が汚れていたので魚が生きにくそうだと思った」「海をきれいにしていくことは大切なことだとわかった」など、率直な感想が書かれていました。さらに、ほぼ全て（90%以上）の小学生が「またこういった活動に参加したい」と回答していました。

本事業を実施していく中で、“生まれて初めて海に入った”“地元の海に入るのは初めて”“地元の海にどんな生物がいるのか全く知らない”といった小学生も少なくありませんでした。そういった子ども達を含め、全員が実際の水中世界を知ることで沢山の気付きや学び、楽しさを得ていました。そんな子ども達の表情を間近で見ていた保護者の方々からも、沢山の感謝の声や、「水中環境について自分自身も考えることができた」といった感想をいただきしており、本事業を通じて大人と子どもがそれぞれ海と自分たちとの生活を考えていくキッカケを得られたのではないかでしょうか。

また、本事業は、行政や教育機関、非営利団体等と様々な面で連携しながら行ったため、活動の告知や募集、窓口など、当団体のスタッフのみで全てを行うのではなく、共催団体と役割を分担し、協力しながら実施することができました。連携した団体からも満足度も高く、来年度以降も同じ内容で事業を実施してほしい、という依頼を受けており、参加者だけではなく、水中環境について考える行政や教育機関、他団体へも良い影響を与えたのではないかと考えます。



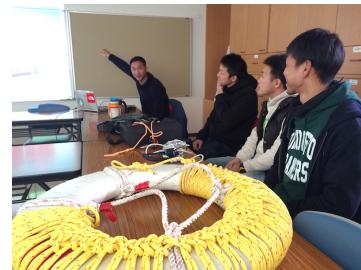
実施場所	宮浦海岸（福岡市西区）、うしろ浜（福岡市西区）、小戸公園（福岡市西区）、筥崎宮（福岡市東区）、新宮海水浴場（糟屋郡新宮町）
実施期間・回数	2016 年 4 月～10 月 全 8 回
参加人数	延べ 300 名
事業の対象者	市内在住の小学生および保護者、一般成人
助成団体	福岡市環境局「工コ発する事業補助金」 公益財団法人日本財団 「海と日本プロジェクト 2016」 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金

#### 4. 災害救援ダイバー事業

本事業では、災害時いち早く水中瓦礫の撤去や搜索のために動ける民間ダイバーの育成を行っています。この背景には、団体の代表理事である大神が災害救援の NPO 法人を運営しており、被災地での活動ノウハウを持っていることがあります。2016 年に起こった熊本地震でも、被災地で支援活動を行いました。福岡市内でも、各行政担当部署より防災・減災活動における大きな信頼を寄せていただいています。その中で、ダイバーにしかできない被災地支援活動を目標とし、高いスキルを持ったダイバー達による水中での搜索や、透視度ゼロの中でのロープワーク、船底やスクリューについていた貝類等を削る作業など、通常のダイビングよりはるかに困難を極める中での安全確保や、水中で迅速かつ丁寧に動くための訓練を積んでいます。

2016 年度は、佐賀市の水難救助隊との合同訓練も実施し、現場スキルの習得などにも取り組みました。

実施場所	博多湾（糸島エリア）
実施期間・回数	2015 年 12 月～3 月 全 3 回
参加人数	延べ 30 名
事業の対象者	スクubaダイビングライセンス保持者



## 5. FUN 海体験事業

スクーバダイビングライセンスを保有していないが、水中世界に興味がある方々を対象に 1 日体験ダイビングを実施しました。自然の中で出会う一期一会の場面を通して、様々な“感動”“気付き”を生み出しました。通常の体験ダイビングでは、集合した後すぐに海洋でのダイビングとなりますが、当団体の実施したプログラムは、まず簡単な学科講習を行った上で、ダイビングにおける基礎知識や安全管理について説明、その後プールにて呼吸法や器材の取り扱いなどのレクチャーをスクーバダイビングインストラクターが行うことが最大の特長です。こうすることで、参加者の海（水）に対する恐怖心を取り除き、心から海中世界を楽しんでもらうことを可能にしました。

実施場所 博多湾（糸島エリア）

実施期間 2015 年 5 月～10 月

参加人数 延べ 40 名

事業の対象者 一般成人、中高生、小学生（10 歳以上）



## 6. その他

2016 年度は、当団体設立二年目ではありますが授業、講演、写真展、体験イベントなど福岡の海に関わる活動が多岐に渡りました。私達が水中環境・生物多様性の保全には欠かせないと考えるそれらの活動について、各所から注目していただき、いくつかのメディアにも取り上げていただくことができました。こうした媒体を通じて、また一人、また一人、と水中世界を守る想いや活動の輪が拡がっていくことを願っています。

新聞	2015 年 12 月 読売新聞（写真展） 2016 年 2 月 朝日新聞（写真展）2 回 2016 年 7 月 朝日新聞（“ひろい”海の活動）
ラジオ	2016 年 8 月 KBC ラジオ「TOGGY's AHEAD！」 2016 年 10 月 LOVE FM
テレビ	2016 年 9 月 KBC 特番 「水と緑の物語 未来に残したいタカラモノ～あの時また種～」 2016 年 10 月 RKB 「チャギハ！」
雑誌・HP	マイタウン姪浜 8 月号 マイタウン伊都 3 月号（巻頭特集） 福岡市漁協 HP（市役所写真展）





一般社団法人

ふ・く・お・か **FUN**  
Field & Underwater Naturalists

<http://www.fun-fukuoka.or.jp/>

〒819-0201 福岡県福岡市西区宮浦2129-3

TEL092-809-2080 E-mail:uminogakko@fun-fukuoka.or.jp